

第1章 令和5年度嬉野市の教育

嬉野市の将来像は、「新市まちづくり」の目標として、次の4点の基本方向を定めています。

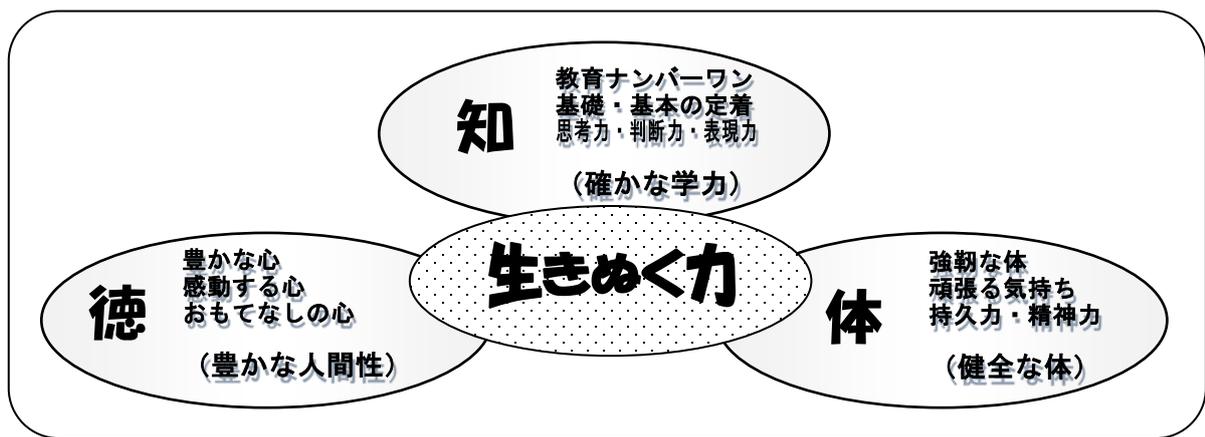
- 1 世代をこえて住み続けるまち
- 2 支え合う喜びが広がるまち
- 3 自ら考え、自ら動く自発のまち
- 4 「人」輝き 活力あるまち

この基本方向を踏まえて、嬉野市の教育では、本市独自の21世紀型教育システムの構築を図りながら、将来「歓声が響きあう嬉野市」を担うであろう、心豊かでたくましい「嬉野っ子」を育成する必要があります。

そこで、本市では、児童生徒一人ひとりが、生涯にわたり学習する基礎となる『自ら学び・考え・行動する力』、つまり『生きぬく力』を育むために、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健全な体」のいわゆる「知」「徳」「体」のバランスのとれた教育を推進していくことが重要であると考えています。

「確かな学力」では、基礎基本を定着させ、思考力・判断力・表現力を育成し、教育ナンバーワンをめざします。「豊かな人間性」では、豊かな心、感動する心やおもてなしの心を育みます。「健全な体」では、強靱な体、頑張る気持ち、持久力・精神力を育てます。

この調和のとれた教育活動は、やがて国際的視野に立ち、社会経済の発展に貢献し、地域社会や文化を創造する人材の育成につながっていきます。



嬉野市教育委員会では、第2次嬉野市総合計画に基づく嬉野市教育大綱に沿い、具体的施策の実施等、市の教育振興に取り組みます。

そのためには、本市教育に携わる者すべてが、嬉野市の教育をしっかりと自覚し、確実に取組を行うことで、市民の期待と信頼に応えられるようにします。

嬉野市教育委員会は、次の4つの重点目標を掲げました。

この重点目標は、教育理念や制度の確立、具体的施策の拡充等だけではなく、本市教育に携わる者

一人ひとりの自覚と意識改革とが相まって、はじめて実効あるものとなります。

そこで、このような認識のもと、本市教育に携わる者は、その使命と責任の重大さを自覚し、常に研鑽に努め、市民の期待と信頼に応えなければなりません。

「重点目標」

- 1 生きぬく力を育む学校教育の推進
- 2 教育活動を支える環境の整備
- 3 いきいきとした人生を送る生涯学習・スポーツの推進
- 4 文化の振興と伝統・歴史文化財の保存活用

重点目標1 生きぬく力を育む学校教育の推進

学校教育においては、令和2年度からの学習指導要領の改訂に伴い、「生きぬく力」の育成の具現化や社会に開かれた教育課程の編成が求められています。

このことに伴って、次に掲げる様々な教育課題を解決するために「嬉野市立学校の管理運営に関する規則」に基づき、学校の自主・自立とともに、校長の学校マネジメントを支援し、チーム学校を推進し学校力を高めるための実践化を図ります。

〔現状と課題〕

- 科学技術の発展や情報化・国際化の進展など急速な社会変化の中で、本市の未来を担う子どもたちには、社会の変化に主体的に対応し、たくましく生きていくために、「確かな学力」、「豊かな人間性」、「健康・体力」等の「生きぬく力」を身につけさせることが強く求められています。
- 「確かな学力」を体得させるためには、基礎的・基本的な学力を確実に定着させ、子ども自ら課題を発見し、自ら考え、解決していく過程を大切にしている指導を充実させていくことが大切です。そのためには、基本的な生活習慣や学習習慣をしっかりと定着させ、子どもたちがじっくり学び、じっくり活動し、安心して充実した学校生活を送れるようにしていかなければなりません。
- 「豊かな人間性」を育むためには、特別の教科道徳を充実させると共に、奉仕活動や自然体験活動、社会体験活動など多様な体験を重視した教育活動に取り組み、子どもの心の内面に働きかけることが大切です。
- 「たくましく生きぬくための健全な体」の育成のためには、生涯にわたってスポーツを楽しむ素養や望ましい食習慣の形成のための食育、心の健康など体育・健康・安全教育等の充実を図る必要があります。
- 小中学校の9年間に渡って一貫した教育方針による指導を行うことが、教育効果及び教職員の資質向上の面からも肝要です。
- 諸課題を解決するためには、教職員のたゆまぬ資質の向上が不可欠です。教職員は「教師の意識が変われば学校が変わり、子どもも変わる」ことを認識し教職員として強い使命感を持ち、指導力や専門性の向上など意欲的に研鑽に励まなければなりません。また、学校が一丸となって組織として課題解決に当たるとともに、PDCAのマネジメントサイクルにより課題解決を図っていくことが必要です。

これらの課題解決のために、以下のことを重点事項として取り組みます。

重点事項

- 1 確かな学力の育成
- 2 豊かな人間性を培う心の教育の推進
- 3 教職員の資質や指導力の向上
- 4 社会の変化に対応した教育の推進

重点事項 1： 確かな学力の育成

確かな学力とは「知識や技能に加えて学ぶ意欲や、思考力、判断力、表現力など自分で課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、行動し、よりよく問題を解決する資質や能力など」を含めた幅広い学力を育てることと捉えています。教職員は、学力について共通認識をもち、子どもに身に付けさせなければならない学力は何かを確実に把握して日々の指導に臨み、「わかる授業」を実践しなければなりません。

そのためには、指導と評価の一体化を図り、子どもたちにじっくり学ばせ、活動させ、基礎・基本の確実な定着はもちろん、一人ひとりのよさや可能性を伸ばすために、発展的な学習を含め子どもの特性を生かした学習の充実と個に応じた指導の一層の工夫改善に努めることが大切です。中でも、授業力向上に向け、嬉野メソッドに基づいた授業を実践することはもちろん、PDCAのマネジメントサイクルにより工夫改善をしていく必要があります。また、授業研究会や職員間の授業参観、小学校・中学校間の授業参観の実施等により、指導力の向上を図っていくことが大切です。そして、家庭での学習習慣を身に付けさせるため、家庭と一体となった指導方法の工夫改善を図る必要があります。

さらに、小中学校の9年間を見通した「ろく・さんプラン」（「小中連携・小中一貫教育」）充実・深化に向けた新たな3（スリー）ステップの作成により教育活動の充実を図っていきます。

【具体的施策】

- (1) 小・中連携による連携教育の推進・充実
 - 「ろく・さんプラン」（9年間を見通した教育：「小中連携教育」）の新たな3（スリー）ステップの作成
 - 3（スリー）ステップ別の取組の構築と中学校区別の小中連携年間計画の作成
- (2) 小学校の英語活動（小3～4）、英語学習（小5～6）の推進及び中学校の「放課後等補充学習支援事業」による生徒の基礎学力の向上
- (3) 国語辞典を支給し活用させることによる「辞書引き学習」の推進
- (4) 研究指定校の取組
 - 塩田中校区の4校を嬉野市教育委員会研究指定校（1年目）として、学力向上を目的とした小中連携の在り方に関する研究を推進する。
- (5) 校内授業研究会等の充実による授業改善・授業力向上に係るPDCAサイクルの浸透
 - 基礎・基本の確実な定着を図る指導方法の工夫と改善
 - TT、少人数、習熟度別指導等、個に応じたきめ細かな指導
 - 発達障害の視点に立ち、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、生活や学習上の困難を改善、克服するための個に応じた支援の充実
 - 学ぶ楽しさや達成感を実感できる主体的・対話的で深い学びによる嬉野メソッドの定着

- 授業評価カード等を活用した教職員相互授業参観、小・中学校間の授業参観の充実と指導と評価の一体化の研究
- タブレット端末等 I C T機器を活用した授業の充実及びオンライン授業の試行・習熟
- (6) 家庭学習の習慣化及び補充指導の充実
- (7) 全国学力学習状況調査及び、佐賀県学習状況調査の分析に基づく課題把握とその対策の充実
- (8) 2学期制を生かした授業時数確保による学力向上、夏季休業中の補充指導の充実
- (9) 幼・保・小連携による基本的な生活習慣・学習習慣の定着
- (10) 「学びの習慣づくり」リーフレットや「学習規律・学習習慣作り（指導の手引）」の活用による小・中の学びの連続性の確立
- (11) 新聞を利活用した教育活動の工夫と新聞活用指定校の取組の充実（塩田中学校、吉田小学校）
- (12) 体育・健康・安全教育、給食指導及び食育の充実

《指標》

指標名		単位	現状(4年度)	目標(5年度)
1	全国学力学習状況調査の平均正答率 (国語・算数(数学)) 全国平均(100)以上	ポイント	小6:国語(100.6) 算数(101.3) 中3:国語(102.9) 数学(99.2)	小6:国語(100.0) 算数(100.0) 中3:国語(100.0) 数学(100.0)
	佐賀県学習状況調査の平均正答率 (国語・算数(数学)) 県平均(100)以上		小5:国語(98.8) 算数(104.2) 中2:国語(100.7) 数学(119.0)	小5:国語(100.0) 算数(100.0) 中2:国語(100.0) 数学(100.0)
2	自宅で計画を立てて勉強をしている児童生徒の割合(「よくしている」「ときどきしている」) (全国学力学習状況調査の質問紙)	%	小6:73.2% 中3:62.2%	小6:70.0% 中3:65.5%

重点事項 2： 豊かな人間性を培う心の教育の推進

生命を尊重する心、思いやりの心、倫理観や正義感、美しいものや自然に感動する心などの豊かな人間性の育成を目指し、ボランティア活動や自然体験活動などの体験を重視し、道徳教育等を通して心の教育の充実を図ります。

まず、佐賀県が進める「佐賀を誇りに思う教育」と連携し、生活科や総合的な学習の時間において嬉野学（郷土を学び、郷土で学び、郷土を生かし、郷土を育てる学習）を展開することを通して、嬉野市を愛する心を育てるとともに、地域と連携した心の教育を推進し、ひいては嬉野市の発展を担う子どもを育成します。

次に、『嬉野市副読本「生きる力」の教科書』の改訂に当たり SNS の分野を加えた三訂版（令和2年度版）を活用し、今後出遭うかもしれない様々な問題に対しての自己解決力や自己防衛力とともに規範意識を育てます。

また、子どもの心の栄養、心を耕す視点から読書活動の充実を図るため、平成19年度より市

内全小・中学校で実施している朝読書を今後も継続し充実させ、豊かな感性の醸成に努めていきます。さらに、新聞等に親しみ、知識や視野を広げることも進めていきます。

一方、子どもにかかわる諸問題（不登校や様々な問題行動）に対応するために、学校・家庭・地域・関係機関等と連携して生徒指導、教育相談等を進めていくことも課題です。本市では教育支援センターとして、平成19年度より嬉野町に「ひまわり」、平成21年度より塩田町に「あさがお」を開設し、登校を躊躇してしまう子どもへのきめ細かい支援や相談活動を行ってきました。嬉野中学校では平成16年4月に「復帰教室（いちょう）」を開設し、塩田中学校では令和2年度「復帰教室（すずらん）」を開設して、不登校生徒の学習の場所を確保し、学級復帰へのステップとなる取組を進め、家庭・地域・関係機関と組織的に対応していきます。また、令和4年度から不登校対応コーディネーターを配置し、市全体を統括して学校・相談委員等へ指導助言を行い、不登校未然防止に取り組んでいきます。

いじめは決して許されないことですが、どの学校でもどの子どもにも起こりうるという認識を持ち、積極的な実態把握、情報を共有する校内体制づくり、いじめを見逃さない・許さない学級づくり、PTAとの連携体制づくりや社会体育等との連携体制づくり等を行っていく必要があります。

また、人権意識の高揚を図るため、人権・同和教育の推進に努めるとともに、特別支援教育についても特別支援教育支援員を配置し、特に配慮や支援を必要とする児童生徒に対し、きめ細やかなニーズに応じたサポートを行うなど共生教育の視点に立って推進していきます。

〔具体的施策〕

- (1) 「嬉野学」による心の教育の推進（「嬉野学指導資料集」の令和元年度版の作成と活用）
（授業計画、年間指導計画の研究と実践事例の共有化）
- (2) 小学校6年生から中学校3年生までの4年間で使用する『嬉野市副読本「生きる力」の教科書（三訂版）』の活用による自己解決力、自己防衛力、規範意識の育成並びに指導方法の工夫改善
- (3) 実践的体験活動の充実
 - ボランティア活動、ユニバーサルデザインを理解し社会に貢献する児童生徒の育成
 - 武道による相手への敬愛心や伝統文化を尊重する態度の育成と評価の実践
- (4) 「特別な教科道徳」に対する職員の研修及び教育活動全体を通じた道徳教育の充実
- (5) 教育相談事業及び不登校対応の充実（別室及び教育支援センター、スクールソーシャルワーカー、教育相談員等の活用、民生児童委員・保健師・家庭相談員など外部機関との連携）
- (6) 生徒指導・進路指導の充実
- (7) 読書活動の推進
 - 条例に基づくテーマ、「本で広まるみんなの和」取組の推進
 - 「朝読（あさどく）」から「家読（うちどく）」へ、家庭読書の推進
（「読書回覧板」「ブックリスト」「ハッピーバースデーブックプレゼント」等学校での取組の充実）
- (8) 人権・同和教育の推進と充実
- (9) 特別支援教育の推進
 - 早期支援コーディネーターの活用と取組の充実
 - 引き継ぎシートを活用した嬉野市独自の就学支援の推進
- (10) 特別支援学校等との連携及び交流教育の推進
- (11) インクルーシブ教育に関する就学相談等の在り方についての教職員研修会の実施
- (12) 不登校対応コーディネーターの配置と活用

- (13) いじめ問題の啓発を図るために作成した児童生徒用、保護者・地域用いじめ対策パンフレット並びに教職員マニュアルの活用
- (14) いじめ問題の早期発見・早期対応のために、定期的なアンケートを実施するとともに、一般からの電話相談・対応と学校への支援を積極的に行う
- (15) 文化芸術等の巡回公演事業の積極的誘致
- (16) ラジオ体操（夏休み中）の取組
- (17) 児童虐待防止の取組

《指標》

指標名		単位	現状(4年度)	目標(5年度)
1	不登校の児童生徒数(率)	%	小:0.98	小:0.70
			中:5.87	中:3.00
2	文化芸術体験活動	校	7/12校	12/12校
3	ふるさとへの愛着 地域行事への参加率	%	—	小:80%
			—	中:85%
4	いじめ未然防止のための人権集会(教室)	回数	各校1回以上	各校1回以上
5	いじめの早期発見のアンケート実施	回数	各校2回以上	各校2回以上

重点事項 3： 教職員の資質や指導力の向上

子ども、保護者、地域社会の信頼に応え、学校教育の充実・発展に専念することは教育公務員としての教師に課せられた大きな使命です。

そこで、教職員には今日的課題に即した意識改革が必要となってきます。また、その使命を達成するために、広い教養と豊かな人間性、深い教育的愛情や専門的な指導力と自らを厳しく律する態度が大切です。

そのため、教職員は常に旺盛な研修意欲を持ち、研究と修養に努めなければなりません。

[具体的施策]

- (1) 若手からベテランまで世代を超えて共に切磋琢磨し、学び合う学校文化の醸成（OJTの活用）
- (2) 教職員の小・中学校連携の推進
 - 嬉野市内各中学校区ごとの「ろく・さんプラン」新たな3（スリー）ステップの作成
 - 塩田中校区4校の研究指定に係る公開授業の参観を実施
- (3) 教職員の研修の充実
 - 教育相談に係るカウンセリングマインドについて
 - 発達障害の児童生徒の困り感の把握と支援の工夫について
 - いじめ問題や体罰に関する危機管理意識について
- (4) 教職員の意識改革（主体的・対話的で深い学びによる「嬉野メソッド」の定着）
- (5) 職員集団の組織力の向上と活性化（ラインによるケアの充実）
- (6) わかる授業、魅力ある授業、問題解決的授業の推進
- (7) 指導主事等を中心とした指導・助言活動の充実
- (8) 教育公務員としての服務規律の遵守

(9) 学習指導要領の改訂に対応した指導内容の研修及び新たな教育課程の策定

≪指標≫

	指標名	単位	現状(4年度)	目標(5年度)
1	市教委主催教職員研修会の開催	回	1回	1回
2	教職員の表彰	人	2人	2人

重点事項4： 社会の変化に対応した教育の推進

情報化や国際化の進展に伴い社会が大きく変化し、学校教育に求められる課題もますます多様化してきています。そうした中で、学校は保護者や地域住民の協力を得て、教育活動を展開し、子どもたちはもちろん、保護者や地域からも信頼される学校づくりをしていくことが大切です。

そのためには、校長、教頭の強力なリーダーシップのもと、教育活動や学校運営の状況について、自己評価や学校関係者評価を充実させます。そして、その結果を積極的に公表することで教育活動に対する保護者や地域住民の理解を深め、支援・協力体制を確立し、学校運営の改善に取り組み、諸教育課題の解決に努めます。平成20年度から導入した「校長先生の知恵袋事業」を活用して、学校マネジメントの充実に重点をおいて、学校教育目標の具現化に努めます。

一方、令和元年度末に改訂した『嬉野市副読本「生きる力」の教科書』の効果的な活用を図り、自己解決力、自己防衛力、規範意識等を培います。

また、タブレット端末の利活用を進め、高度情報化社会に対応できる情報活用能力を育てるとともに、分かりやすく効果的な授業の創造や、校務の効率化を図っていきます。

そして、教育委員会の活性化のために、「教育委員会評価」を実施し、外部の学識経験者等の方々に評価を仰ぎ、改善を進めていきます。

[具体的施策]

- (1) 校長、教頭の強力なリーダーシップの発揮(校長先生の知恵袋事業・教職員人事評価制度)
- (2) 創意工夫と特色を生かした自主・自立の学校経営の推進
- (3) 『嬉野市副読本「生きる力」の教科書(三訂版)』を活用した指導の充実・深化及び効果の検証
- (4) タブレット端末を活用したオンライン教育の研究
- (5) 早期支援コーディネーターの活用と取組の充実
- (6) 不登校対応コーディネーターの取組の活用と取組の充実
- (7) 国際理解教育、情報教育、環境教育、福祉教育の推進
- (8) 学校評価・情報提供の充実・改善のための実践研究の継続
- (9) 社会教育委員と教育委員会との懇談会の実施
- (10) 夏季休業期間の短縮による教育活動の充実
- (11) 学校における「新しい生活様式」の検討と実践
- (12) スクール・サポート・スタッフの活用による教員の児童・生徒に関わる時間の確保

≪指標≫

	指標名	単位	現状(4年度)	目標(5年度)
1	校長先生の知恵袋事業の成果発表	回	1月のプレゼンの際に発表	1月のプレゼンの際に発表
2	早期支援コーディネーターの活用(市費対応)	校	すべての小中学校	すべての小中学校
3	不登校対応コーディネーターの活用(市費・県費対応)	校	すべての小中学校	すべての小中学校

